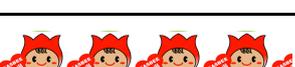
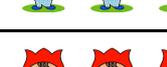


CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要			
建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟支社 道路管制センター 江南区 亀田早通3233 市街化調整区域、防 事務所, 2013年7月 予定 39,554.23 m ² 748.43 m ² 2,199.13 m ² 地上3F S造 実施設計段階評価 2010年1月5日		
2. CASBEE新潟の評価結果			
 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49}{44} = 1.1$
3. 新潟市の重点項目の評価			
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.3		バリアフリー Q2.1.1.3 4.0 維持管理 Q2.1.3 3.0 更新性 Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.9		耐震・免震 Q2.2.1 3.8 信頼性 Q2.2.4 4.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減 LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.8		建物の熱負荷抑制 LR1.1 4.0 自然エネルギー利用 LR1.2 3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.3		節水 LR2.1.1 4.0 リサイクル材の使用 LR2.2.4 4.0 再利用可能性向上 LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		生物環境の保全・創出 Q3.1 2.0 敷地内温熱環境の向上 Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮 Q3.2 3.0 地域性への配慮、快適性の向上 Q3.3.1 2.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項			
太陽光発電を採用し、自然エネルギーの有効活用に取り組んでいる建物である。また、耐震性能を通常の25%増での計画とし、地震時に被害を受けにくい建物になるよう配慮した。			

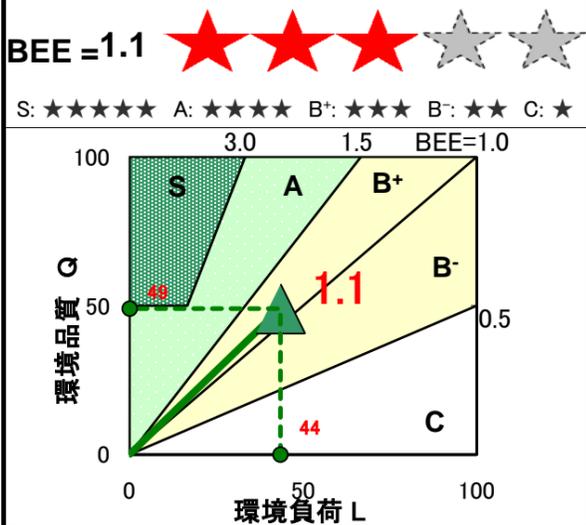
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

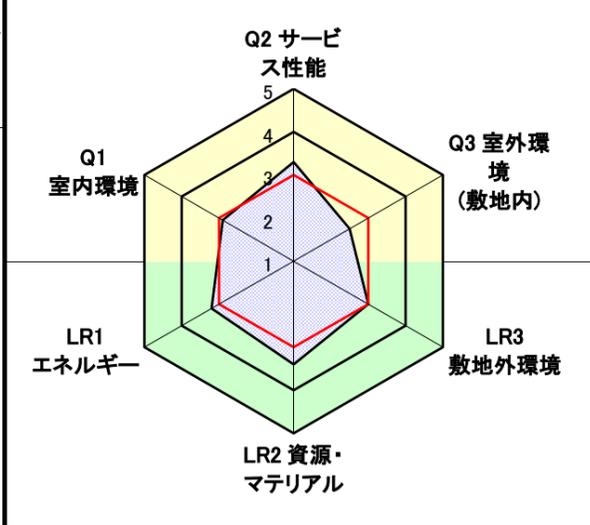
評価結果内訳

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE新潟(v.1.2)

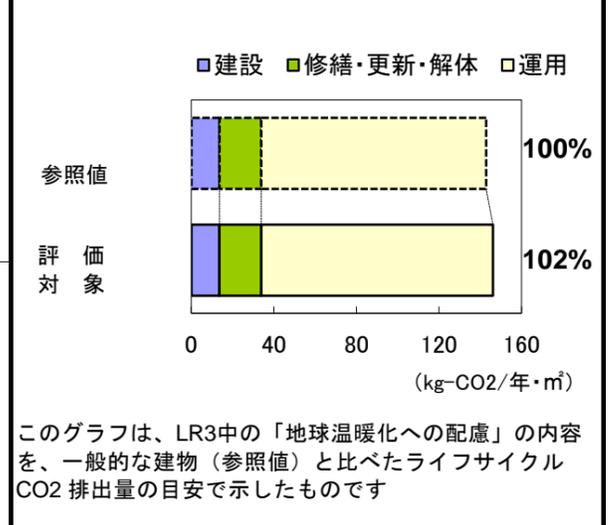
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



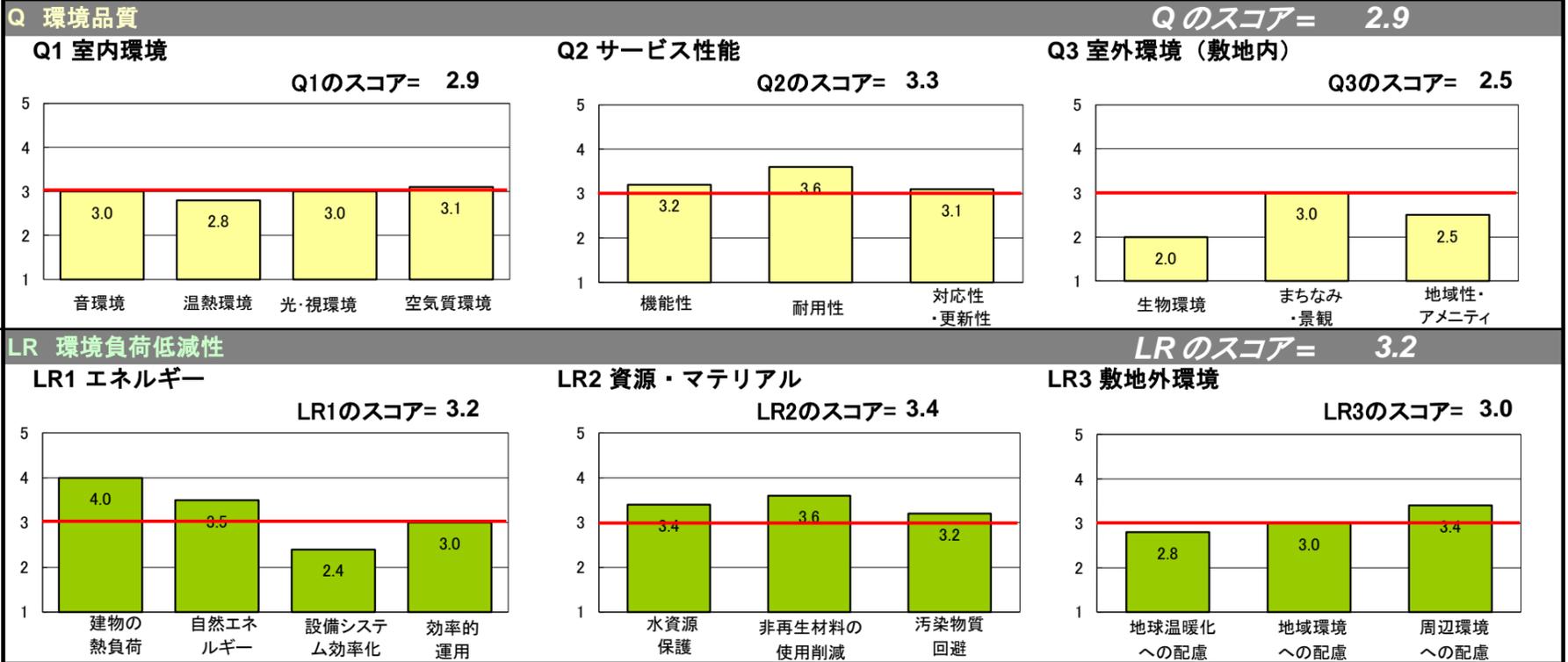
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 24H運営の建物なので運営時のLCCO ₂ をいかに抑えるかを考慮し計画を行った。	その他
Q1 室内環境 Low-Eガラスを採用し室内の断熱効果を高める計画とした。	Q2 サービス性能 建物内をバリアフリー化し天井高さを2.7m確保することで快適な居室空間になるよう計画した。
Q3 室外環境 (敷地内) 既存敷地への増築なので、既設緑地を極力破壊しないよう建物配置を計画した。	LR1 エネルギー 省エネ法によるポイント値が100を超えるよう計画を行った。また、太陽光発電を計画しCO ₂ 削減に努めた。
LR2 資源・マテリアル グリーン調達品目、エコマーク商品を進んで採用した。	LR3 敷地外環境 敷地周囲の環境に影響を与えない建物配置を心がけた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される